

ルカの福音書 04回  
マリアのエリサベツ訪問  
ルカ 1：39～45

1. はじめに

(1) 前回は、「イエス誕生の告知」について学んだ。

- ①マリアにしるしが与えられた。
- ②親類のエリサベツは、妊娠6ヶ月になっている。
- ③ルカ 1：38

**Luk 1:38** マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

④ルカ 1：39

**Luk 1:39** それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。

- ⑤マリアの妊娠は、38節と39節の間に起こった。
- ⑥そのマリアが、エリサベツに会いに行く。
- ⑦二人の無名の女性の出会いによって、人類救済の歴史が大きく動く。
- ⑧小さな始まりを決して軽視してはならない。

2. アウトライン

- (1) マリアのあいさつ (39～42節 a)
- (2) エリサベツの応答 (42b～45節)

3. 結論

- (1) 神の母
- (2) 聖霊の満たし

マリアのエリサベツ訪問について学ぶ。

I. マリアのあいさつ (39～42節 a)

1. 39～40節

**Luk 1:39** それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。

**Luk 1:40** そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

- (1) マリアに与えられた「しるし」は、エリサベツの妊娠であった。
  - ①マリアは、急いでユダの山地の町に住むエリサベツを訪問した。
    - \*ザカリヤとエリサベツは、「山地にあるユダの町」に住んでいた。
    - \*紀元6世紀以降、この町はエン・カレムと特定されている。
  - ②ナザレからは、徒歩で4日前後かかる（距離は約160キロ）。

- ③街道に強盗が出没したので、ひとり旅は非常に危険である。
- ④同行者がいたか、キャラバン隊を見つけたかのいずれかであろう。
- ⑤でなければ、家族はこの旅を許可しないはずである。

(ILL) 聖地旅行でのエン・カレム訪問

(2) 訪問の理由は書かれていないが、推測することはできる。

- ①ナザレから一時的に逃れるため
- ②不安定な時期を平安に過ごすため
- ③天使から聞いた「しるし」を確認するため
- ④親戚のエリサベツから、慰めと励ましを受けるため

(3) マリアは、ザカリヤの家に言って、エリサベツにあいさつをした。

- ①ザカリヤは、依然として耳が聞こえず、口もきけなかった。
  - \*不信仰へのさばきの期間が続いていた。
- ②エリサベツは、少なくとも妊娠6ヶ月目に入っていた。
- ③「あいさつ」とは、平安を祈る言葉である。「シャローム」
- ④その時、超自然的なことが2つ起こった。

2. 41～42節 a

**Luk 1:41 エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。**

**Luk 1:42a そして大声で叫んだ。**

(1) 子が胎内で躍った。

- ①躍るとは、喜びの表現である。
- ②ヨハネは、母の胎にあるときからメシアの先駆者としての奉仕をしている。
- ③ルカ 1:15

**Luk 1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、**

- ④すでにマリアの胎内に子が宿っているのが分かる。
- ⑤ヨハネは、マリアの胎内に宿るイエスについて証言したのである。

(2) エリサベツは、聖霊に満たされ、大声を上げた。

- ①胎児とその母は、イエスがメシアであることを認識する最初の人となった。
- ②彼女は、聖霊に満たされ、大声を上げた。
  - \*満たされるとは、聖霊の支配のことである。
  - \*大声で語るとは、預言的言葉を語ることである。

## II. エリサベツの預言的言葉（42b～45節）

### 1. 42節b

**Luk 1:42b 「あなたは女の中で最も祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。」**

- (1) エリサベツの叫びは、ヘブル的対句法で記されている。
  - ①マリアの賛歌もまた、非常にヘブル的である。
  - ②「女の中で最も祝福された方」
    - \*ヘブル的には、「非常に祝福されている」という意味である。
    - \*当時は、女性の偉大さは、どのような子を産んだかによって決まった。
  - ③「胎の実も祝福されている」ので、「女の中で最も祝福された方」である。
    - \*マリアは、メシアを宿す特権に与った。

### 2. 43節

**Luk 1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう。」**

- (1) 焦点はマリアではなく、胎内の子に合わせられている。
  - ①マリアは、彼女自身の偉大さではなく、胎内の子のゆえに尊い存在である。
- (2) 「私の主の母」
  - ①エリサベツはマリアの胎内に宿っている子を「私の主」と認識した。
    - \*エリサベツは、天使ガブリエルが伝えた内容を完全に理解していた。
  - ②イエスは主であるという認識が広がるのは、聖霊降臨以降のことである。
  - ③使 2 : 36

**Act 2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」**

- (3) マリアは「主の母」である。
  - ①エリサベツは、妬み心から言っているのではない。
  - ②彼女には、マリアの胎内に宿る子が自分の救い主であるという喜びがある。
  - ③エリサベツは、自分は「主の母」の訪問を受けるに値しないと考えた。
  - ④ここでは、バプテスマのヨハネに対するイエスの優位性が表現されている。
- (4) 主とは、「キュリオス」である。
  - ①ユダヤ人には、「メシア」という言葉の方がより重要である。
    - \*ユダヤ人たちは、メシアの到来を待ち望んでいた。
  - ②しかし、ギリシア人には「キュリオス」という言葉の方が重要である。
    - \*異邦人たちは、カイザルのことを「キュリオス」と呼んでいた。

- ③七十人訳聖書では、ヤハウエというヘブル語がキュリオスと訳されている。
- ④共観福音書では、「キュリオス」は166回出て来る（95回がルカ）。
- ⑤ルカは、イエスを指す言葉として「キュリオス」を用いた。

#### 4. 44～45節

**Luk 1:44** あなたのあいさつの声が私の耳に入った、ちょうどそのとき、私の胎内で子どもが喜んで躍りました。

**Luk 1:45** 主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」

(1) エリサベツの子は、胎児の時からメシアの先駆者として働いている。

- ①その子は、喜んで使命を果たしている。「喜んで躍りました」
- ②成人したヨハネが語る言葉（ヨハ3：29）

**Joh 3:29** 花嫁を迎えるのは花婿です。そばに立って花婿が語ることに耳を傾けている友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。ですから、私もその喜びに満ちあふれています。

(2) マリアは「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人」である。

- ①それゆえマリアは、幸いである。
- ②ザカリヤとの比較（ルカ1：20）

**Luk 1:20** 見なさい。これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私のことばを、あなたが信じなかったからです。」

- ③マリアは、疑いを抱きながらエリサベツを訪問したのではない。
- ④彼女は、天使が告げた内容は必ず実現すると信じた。
- ⑤そしてエリサベツは、マリアの信仰を賞賛した。

## 結論

### 1. 神の母

(1) カトリック教会は、マリアを「神の母聖マリア」と呼ぶ。

- ①確かに、マリアはイエスの母である。
- ②また、イエスは人間性と同時に神性を持っている。
- ③だからと言って、マリアが「神の母」であるとは言えない。

(2) 聖書には、「神の母」という言葉は出て来ない。

- ①神に母があると考えるのは、教理的に問題である。
- ②神は永遠の存在である。
- ③しかしマリアは、母の胎に宿った時から存在し始めた。
- ④神がマリアから誕生したような印象を与える言葉は、危険である。
- ⑤マリアは、イエスの受肉という出来事において用いられた器に過ぎない。
- ⑥それ以上にマリアを崇めることは、非聖書的である。

## 2. 聖霊の満たし

(1) 聖霊の満たしとは、聖霊の支配下に置かれることである。

- ①ペンテコステ以前は、信者は特定の目的のために聖霊の支配を受けた。
- ②ペンテコステ以降は、信者の内に聖霊が継続して住まわれるようになった。
- ③エリサベツは、聖霊の導きによって預言的言葉を語った。

(2) ルカ 1 章で、3 人の人物が聖霊に満たされている。

①バプテスマのヨハネ（1：15）

Luk 1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、

②エリサベツ（1：41）

Luk 1:41 エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。

③ザカリヤ（1：67）

Luk 1:67 さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。

(3) ルカ 1 章と 2 章で、5 つの賛歌が登場する。

①エリサベツの預言的言葉（1：42～45）

②マリアの賛歌（マグニフィカート）（1：46～55）

③ザカリヤの賛歌（ベネディクトゥス）（1：68～79）

④天使たちの賛歌（グロリア・イン・エクセルシス・デオ）（2：14）

⑤シメオンの賛歌（ヌンク・ディミティス）（2：29～30）

(4) エペ 5：18

Eph 5:18 また、ぶどう酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。